

# 「MWC2026から見たモバイル通信とAIの融合」

- モバイル通信とAI
- ネットワークのオープン化
- 5Gの進化とマネタイズ
- NTNの進化
- 6Gへ向けた展望

講師	(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 (開催趣旨説明) マルチメディア推進フォーラムモバイル部会 部会長代理 (元・エリクソンジャパンCTO)	服部 武 氏
	株式会社情報通信総合研究所 ビジネス・法制度研究部 部長 主席研究員	藤岡 雅 宣 氏
(講演順)	株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション本部 6Gテック部	岸田 重行 氏
	KDDI株式会社 先端技術統括本部 先端技術企画本部 副本部長	永田 聡 氏
	ノキアソリューションズ&ネットワークス合同会社 執行役員 モバイルネットワークス事業部 セールスディレクター	今井 尚 樹 氏
		小久保 卓 氏

事務局 ハイテクノロジー推進研究所 〒150-00036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F TEL 03(6416)0190(代) FAX 03(6416)5351

## 「マルチメディア推進フォーラム」のご案内

### 明日の社会発展をリードする情報通信を目指して

情報通信技術が人類の新しい生き方を作り出し、新しい社会を作り出していることは、21世紀に入ってから一般の人々を含め広く認識されるようになった。歴史的にも、人間は近くにいる人々との対話によって協力関係を構築し、グループで力を発揮することによって世界を変化させてきた。通信技術は対話の範囲を広げその能力を強化している。

マルチメディア推進フォーラムは日本の情報通信の発展のために、新しい技術とサービス、その社会的対応と法制度などを多角的に議論するフォーラムである。1990年ころから準備を進め、1994年からは現在の名称となって多くの方々の支援を得て、独占から競争へ、電話からインターネットへ、固定から携帯への変化をとらえ様々に論じてきた。特に情報通信ネットワークのサービスが競争環境で行われるようになった今日、競争状況のなかでなお、ネットワーク事業者は接続されるネットワークについて相互に理解し協力しなければサービスは成立しない。そのためには多くの事業者が相互に理解するチャンネルをオープンに持つことが不可欠であり、本フォーラムでの議論はネットワークサービスの円滑な発展のためにも貢献していると考えている。

通信技術はその発生以来、人と人が交信する技術として発展してきたが、21世紀に入り世界のすべての人が端末を持つようになり、市場は飽和してきた。また通信端末は長く固定端末であったが、携帯端末が主流を占めるようになってきた。このような展開は20世紀には見られなかったことで、21世紀に入ってからの変化は急激である。コンピュータに代表される情報技術は70年前に実現したが、ムーアの法則による超小型化の進展によって社会の隅々に情報処理技術を広げてきている。コンピュータの能力は高まり、大量情報の取り扱いによって、過去においては取り扱いが困難であった巨大な情報に適用することにより、いままでも気が付かなかった現象を分析し、われわれの知識を増やしつつある。このような技術は、すべての社会活動の基礎として広く産業化され、社会化されるようになってきている。

多くの情報は社会の様々な場面で発生する。それぞれの場面には多様な産業がある。家庭では家庭用の機器産業がある。鉄道では交通サービス産業がある。エネルギーを供給する電力産業、医療事業、自動車産業など多様な産業も情報処理と通信の技術を活用しながらサービスを展開しつつある。このような技術における通信はM2M通信(機械と機械の通信)と呼ばれるが、多様な背景を持つ技術のM2M通信について、その初期には産業分野ごとに通信ネットワークを構築する議論も稀ではない。しかし、各分野が独自に情報通信設備を構築することは現実的でない。M2Mネットワークの本質を理解しつつ、共通の通信インフラストラクチャを構成することは情報通信産業に課せられた課題である。同時に情報通信産業は個々のアプリケーションを形成する活用技術について、その特質を理解しなければならない。そのためには、技術を技術としてだけ論ずるのでは不十分である。技術を国際的視野から、社会的な側面を含めて分析し、関連する産業、法制度との整合性を含めて理解することが重要である。時には産業構造の変革、法制度の見直しを考えることも話題になろう。

マルチメディア推進フォーラムは、情報通信技術の多様な発展について論じつつ、新しい市場の特性を理解した幅広い問題を考慮しながら、情報通信事業とサービスの将来を論じたいと考えている。

ICTはますます多様化し、産業としても社会としても重要性を増している。社会のICT化はその社会が国際的に競争力を維持するための基本的要素となっている。マルチメディア推進フォーラムはそのための技術、社会、普及の条件等を幅広く討議し、競争力のある社会を形成する方策について議論を進めている。今日に至る情報通信技術の変革期の中で、その適切な発展のために当フォーラムの果たして来た役割は大きい。このような役割は今後ますます大きくなると考えている。皆様のそれぞれの活動の発展のためにもマルチメディア推進フォーラムに対する御支援をお願いする次第である。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門にご回覧下さいますようお願い申し上げます。

■ 「マルチメディア推進フォーラム — P A R T 1003 — 」開催内容  
(主催)マルチメディア推進フォーラム

テーマ 「MWC2026から見たモバイル通信とAIの融合」

日 時 2026年 4月 16日 (木) 13時00分～17時00分

時間	講演内容	講師
<p>(本フォーラムの趣旨・論点)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● モバイル通信とAI</li><li>● ネットワークのオープン化</li><li>● 5Gの進化とマネタイズ</li><li>● NTNの進化</li><li>● 6Gへ向けた展望</li></ul>		
<p>MWC2026が「The IQ Era」のテーマの下に3月2～5日、スペイン・バルセロナで開催された。その中で、通信事業者やベンダーからこれからのモバイル通信の展望など多くの講演やパネルディスカッションが行われた。また、多くの5G高度化、AI-RAN、オープンRAN、クラウドネイティブ、ネットワークAPI、NTN、6Gへの進化等に関わる発表や展示が披露された。</p> <p>AIがモバイル通信において果たす役割が益々大きくなっており、ネットワークと端末の双方における存在感が増している。5Gはスタンドアローンや5G-Advancedなどにおける進化、新たなユースケースの拡がりが見られる。AIの活用によるネットワーク運用の高度化、オープン化による新たなエコシステムの形成、APIを通じたネットワーク機能の外部開放などの動きが活発化している。また、NTNの大きな展開も期待される。この変化の大きなモバイル通信の現在地を理解し未来を展望するという観点で、MWC2026での活動や展示について振り返って頂く。</p>		
<p>(座長) 上智大学 理工学部 客員教授 服部 武</p>		

13:00 ～ 13:10	(開催趣旨説明)	質疑 応答	藤岡雅宣氏 マルチメディア推 進フォーラム モバイル部会 部会長代理 (元・エリクソン ジャパンCTO)
13:10 ～ 14:05	「MWC2026のハイライト」 ●MWC展示から見る世界の動き ●AIによるネットワーク運用自動化 ●AIのためのネットワーク ●安全・安心なネットワーク ●6Gへ向けてのネットワークの進化	質疑 応答	岸田重行氏 株式会社情報通信 総合研究所 ビジネス・法制度 研究部 部長 主席研究員
14:05 ～ 15:00	「MWC2026を振り返って」 ●MWC展示内容 ●AIによるネットワーク運用自動化 ●AIのためのネットワーク ●AIエージェント ●6Gにむけて	質疑 応答	永田聡氏 株式会社NTTドコモ R&Dイノベーション 本部 6Gテック部
(休憩) (15:00～15:10)			
15:10 ～ 16:05	「MWC2026を振り返って」 ●MWC展示内容 ●自律ネットワーク ●スマートシティ ●AIコンシエルジュ ●コネクティッドモビリティ	質疑 応答	今井尚樹氏 KDDI株式会社 先端技術統括本部 先端技術企画本部 副本部長
16:05 ～ 17:00	「MWC2026展示と発表」 ●MWC展示内容 ●AI-RAN ●オープンRAN ●ネットワークAPI ●6Gにむけて	質疑 応答	小久保卓氏 ノキアソリューシ ョンズ&ネットワ ークス合同会社 執行役員 モバイルネットワ ークス事業部 セールスディレク ター

- 当日、講師の都合により、代理講師による講演あるいは講演順序を変更する場合があります。
- 受講者交替可。

本フォーラムに関連する部門 あるいはご関心をおもちの部門に  
ご回覧下さいますようお願い申し上げます。

# 「マルチメディア推進フォーラム」委員会

(順不同 敬称略)

<b>委員長</b> 齊藤 忠夫 東京大学 (運営諮問委員会幹事)	名誉教授	中村 元 KDDI株	イノベーション技術部長
<b>代表幹事</b> 齊藤 忠夫 東京大学	名誉教授	宮川 潤一 ソフトバンク株	執行役員 (KDDI総合研究所 会長)
<b>副代表幹事</b> 服部 武 上智大学	理工学部 客員教授	石原 直 東京大学大学院	代表取締役 副社長執行役員 兼 CTO
森川 博之 東京大学	大学院工学系研究科電気系工学専攻 教授	浅見 徹 ㈱国際電気通信基礎技術研究所	工学系研究科 特任教授
成宮 憲一 一般社団法人 科学技術と経済の会	専務理事	遠藤 信博 日本電気株	代表取締役社長
<b>幹事</b> 尾上 誠三 国際電気通信連合 (ITU)	電気通信標準化局長	新野 隆 日本電気株	特別顧問
川野 真稔 総務省	国際戦略局 技術政策課長	木内 道男 日本電気株	取締役 会長
間宮 淑夫 内閣官房	内閣審議官	高木 康志 富士通 (株) SVP	執行役 Corporate EVP 兼 テレコムサービスビジネスユニット長
渡邊 昇治 経済産業省	商務情報政策局 総務課長	石田 貴一 ㈱日立製作所	事業部長
西尾 崇 国立研究開発法人 土木研究所	戦略的イノベーション研究推進事務局 次長	伊藤 明男 ㈱日立国際電気	副社長執行役員
立川 敬二 ㈱ハイテック-推進研究所	取締役・特別顧問 (宇宙航空研究開発機構 元 理事長)	梶村 啓吾 エクシオグループ株	代表取締役社長
伊藤 寿浩 日本放送協会	技術局長	加茂下哲夫 /アプリケーション&ネットワーク株	代表執行役員社長
川添 雄彦 NTT株	チーフエグゼクティブフェロー		
池田 敬 NTT東日本株	代表取締役副社長		
桂 一詞 NTT西日本株	代表取締役副社長		
海老原 孝 NTT株	常務執行役員 技術企画部門長		
佐藤 隆明 ㈱NTTドコモ	代表取締役副社長 CTO、CAIO、CPO		
伊東 匡 NTTアドバンステクノロジー株	代表取締役社長		
稲葉 陽子 ㈱NTTデータグループ	技術革新統括本部		
		<b>(主な設立発起人)</b> 齊藤 忠夫 東京大学 名誉教授 吉川 弘之 東京大学 元 総長 立川 敬二 ㈱ハイテック-推進研究所 取締役・特別顧問 (宇宙航空研究開発機構 元 理事長)	
		<b>(最高顧問)</b> 杉本 榮一 自由民主党 甘利 明 元・経済産業大臣 金子 一義 元・国土交通大臣 林 芳正 元・防衛大臣	

## マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1003 – 開催

●日時 2026年 4月 16日 (木) 13時00分～17時00分

●本フォーラムは会員様限定Zoomでのオンラインフォーラムとなります。  
オンラインのみの開催となりますのでご了承の上お申込み下さい。  
(一部、一般受講も受付しておりますのでご希望の方はお問合せ下さい。)

●受講料	¥53,900.- (消費税を含む)	●参加申込要領
●申込先	事務局 ハイテクノロジー推進研究所 TEL (03)-6416-0190 〒150-0036 渋谷区南平台町15-12 南平台アイアイビル2F FAX (03)-6416-5351 E-mail fm@ahri.co.jp	
●申込方法	申込書に所定の事項をご記入の上、FAX又は、Web上 ( <a href="http://www.ahri.co.jp">http://www.ahri.co.jp</a> )にてお申し込み下さい。	
●送金方法	銀行振込 みずほ銀行 渋谷中央支店 1554932 (普) 三菱UFJ銀行 渋谷明治通支店 3504194 (普) ※領収書のご必要な方は、通信欄にご記入下さい。	
●キャンセル	フォーラム開催前、4月9日までのキャンセルは可能ですが、お電話にてご連絡お願い 申し上げます。その後のキャンセルについては、お申し受けできませんのでご了承下さい。その場合は 代理の方の出席か当日配布の「資料」の送付をもって出席とさせていただきます。	
●申込書について	ご記入頂いたご連絡先は本フォーラムの事後連絡として使用させていただきます。 尚、今後開催されるフォーラム等のご案内を配信(又は送付)させていただきますが、今後 弊社からのご案内を停止される方は、事務局までご連絡いただけますようお願い申し上げます。	

きりとり線

## 「マルチメディア推進フォーラム – P A R T 1003 – 申込書

(申込日) 月 日

会社名		TEL ( ) -	
		FAX ( ) -	
		E-mail:	
会社住所	〒		
NO	受講者・所属・役職	受講者氏名 (ふりがな)	
		-----	
		-----	
支払方法	●銀行振込 ( ) 銀行 ●年 月 日振込予定	通信欄	請求書一 要・不要